学校再開ガイドライン

熊本県立南稜高等学校

1 保健管理等に関すること

(1) 感染症対策のための取組

ア 自宅等における健康管理

- (ア) 毎朝、必ず検温及び健康状態の確認を行う。
- (イ) 発熱、風邪症状、倦怠感、息苦しさ、味覚・嗅覚障がい等が見られる場合は、学校に連絡し、登校せずに自宅で療養する。
- (ウ) 咳エチケット、こまめな手洗い・うがい、部屋の換気等の感染症対策をしっかり行う。
- (エ) 「換気の悪い密閉空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話や発声をする密接場面」の3つの条件（3つの密（密閉、密集、密接））が同時に重なる場を避けて行動する。
- (オ) 「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスの取れた食事」など規則正しい生活習慣を心がけ、心身の健康管理に努める。なお、運動する際は、適宜、熱中症対策をとり、実施する。
- (カ) 新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合、濃厚接触者に特定された場合、PCR検査を受けることが決定した場合及び保健所から自宅待機を指示された場合には、保護者が速やかに学校へ報告する。

イ 学校における健康管理

- (ア) 登校時は、検温の有無を確認し、家庭での検温を忘れた生徒等については、教室に入る前に、指定された場所で検温を行う。
- (イ) 生徒に発熱、風邪症状、倦怠感、息苦しさ、味覚・嗅覚障がい等が見られる場合、保護者に連絡を行い、安全に帰宅させ、症状がなくなるまでは、自宅等で休養するよう指導する。
- (ウ) 教室やトイレなど、特に多くの生徒等が手を触れる箇所（ドアノブ、手すり、スイッチなど）は、1日1回以上消毒液を使用して清掃を行う。
- (エ) 生徒等及び教職員は、校内での教育活動に際しては、原則マスクを着用する。特に近距離での会話や発声等が必要な場面では、飛沫を飛ばさないよう、マスクの着用を徹底する。
- (オ) 流水と石けんでの手洗いやうがいをこまめに行う。
- (カ) 換気は、気候上可能な限り常時、2方向の窓を同時に開けて行う。
- (キ) 人と人の距離については、1メートルを目安に最大限の間隔を確保する。

2 学習指導に関すること

(1) 臨時休業に伴う学習の遅れへの対応について

各学校においては、臨時休業期間における計画的な家庭学習による学習内容の定着状況等の確認を行い、時間割編成の工夫、学校行事の重点化や準備期間の短縮、長期休業期間の短縮など必要な措置を講じる。

3 部活動に関すること

部活動の実施に当たっては、感染リスクの高い3つの条件を徹底的に避けるよう、実施内容や方法を工夫する。

(1) 活動日数・時間

ア 6月1日(月)～6月14日(日)

(ア) 1週当たりの活動日数は、週5日以内とする。

(イ) 1日当たりの活動時間は、長くとも2時間以内とする。

イ 6月15日(月)～

活動日数及び活動時間については県の指針に準ずる。

(2) 合宿・練習試合・対外試合・演奏会・校外活動等

ア 練習試合、演奏会、校外活動等について

6月21日(日)から実施できることとする。

イ 対外試合について

7月1日(水)から参加できることとする。

ウ 合宿について

感染拡大防止の観点から、当面実施しないこととする。

(3) 実施上の留意事項

ア 活動前後に必ず検温を含めた体調管理を行うこと。

イ 生徒に発熱、風邪症状、倦怠感、息苦しさ等が見られるときは、部活動の参加を見合わせ、自宅で休養させるよう指導する。

ウ 個々の生徒の健康、体力等を把握し、無理のない活動とする。

エ 感染拡大防止の観点から県外遠征は当面実施しない。

オ 演奏会やコンクール、地域の行事等への参加については、感染症拡大防止対策を確認の上、慎重に行う。

カ 感染の可能性が高い活動は行わない。

キ 活動時間帯を学年別やグループ別に分けて活動を行うなどの工夫を行うことで、一度に大人数が集まって人が密集する活動とならないよう配慮する。

また、咳エチケットをした上で十分な身体的距離を確保して活動するなど、できる限り生徒同士の距離を離すよう配慮するとともに、不要な接触を避けるよう指導する。